

南箕輪村の文化財



指定文化財

十一面観音 【大泉、勝光寺】

平安前期天台宗の高僧慈覚大師（794～864）の作と伝えられ、村内では最も古いものであると考えられる。

正全寺・仲仙寺の観音像と一木三体で、大泉の尊像が最初の元材で作られたので姉像であったという。

戦国時代、大泉に居を構えていた大泉上総も崇拝していたと伝えられる。



不動明王三体 【沢尻、恩徳寺】

本尊の不動明王（写真左）は旧領主太田資智の発願により、成田山新勝寺行場不動尊を勧請したものである。江戸中期の仏師不動金兵衛の作である。他の二体は明治35年、伊那市西春近上島法性院の本尊（写真右）と本村神子柴金剛院から法性院に移されたもの（写真中）を勧請したものである。作者不明であるが、いずれも迫力ある出来栄である。



おいずみ

かさもり

大和泉神社本殿・瘡守稲荷社本殿 【大泉】

大和泉神社本殿は焼失により文政12年（1829）に再建されたもの。立川流宮大工小口直四郎の作で、芸術性高い彫刻が見事である。（写真左）

瘡守稲荷本殿は唐破風に千鳥破風の正規の組物がなされ、手の込んだ社殿である。



十二神将 【神子柴、薬師堂】

十二神将は薬師如来の眷属で、薬師如来を敬う者の苦難を除き守る神である。この十二神将は小さいながら十二支を頭にいただいており、力動感がある。残念ながら一体は失われている。

台の裏に「文化拾三子九月吉日木曾宮越住加藤喜置作之」と印されている。

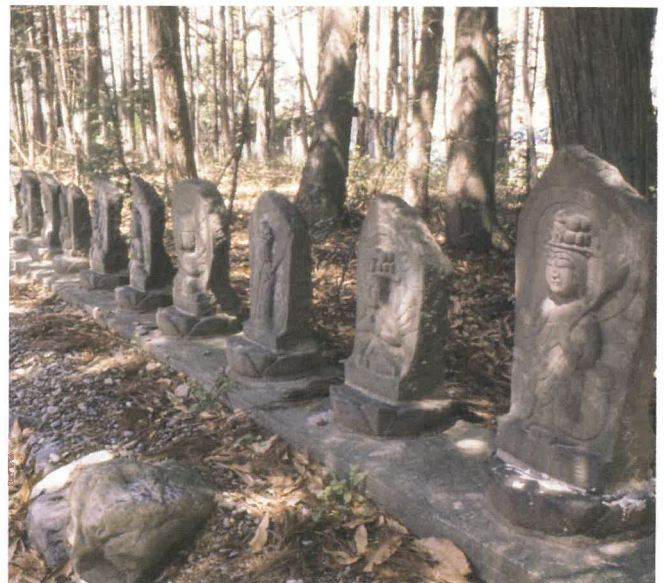
※平成28年3月現在、4体（写真下段の左から1、3、4、5番目）が盗難にあい、紛失している。



新四国霊場 (お四国様) 【北殿、松林寺裏】

北殿の有賀嘉吉が、四国八十八ヶ所の霊場参拝が誰でもできるようにと、四国の各札所の本尊を安置したもの。

石工は大泉の原此右衛門他で、台座の下には嘉吉が各札所から持ち帰った土が入っているという。約10年がかりで嘉永元年（1848）完成した。



三十三所観音 【南殿、農協倉庫北側】

作者・年代は不明であるが、西国三十三番札所の諸仏を模し並べたもののようである。三十三番まできちんとそろい、できればもすばらしい石仏である。

明治6年「地藏庵」が廃庵になったとき、寄進者の「大国屋」に返され、この地に安置された。



富士塚 【養護老人ホーム南箕輪老人ホーム 南】

富士信仰は古くからあるが、江戸初期に富士講が生まれ、富士の山霊を祀る浅間信仰と富士登山が次第に盛んとなり各地方では模造の富士山を築いて登山崇拝の気を味わうようになった。これを富士塚と呼び、村内にただ一つ残ったのがこれである。田畑のほか四ヶ村によって元文5年（1740）に築かれたのが最初のようなのである。

御射山社 【神子柴、春日街道端】

現在の御射山社は前宮か鳥居のあったところといわれ、文政10年（1827）に建てられた石碑と鳥居の礎石と思われるものが残っている。

碑陰によると神社のはじまりは大同4年（809）とあり、古い歴史をもつ。また、その規模もかなりの広さがあったようで、近くに鳥居原・前宮・前宮原などの地字名が残っている。





大般若経六百巻 【塩ノ井、西光寺】

明治30年（1897）南箕輪村、中箕輪村、手良村の人々から奉納されたもので、木版刷りである。

大般若経は大般若波羅密多心経の略、玄奘の漢訳600巻、般若波羅の義を説く諸経典を集成したものである。

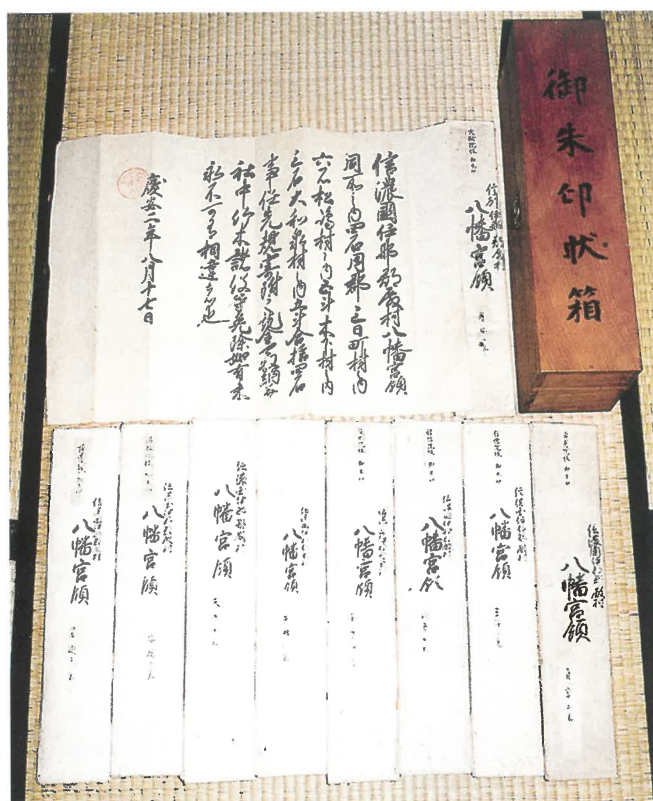
きちんと600巻そろっており貴重なものである。

たいそうかん

大宗館文庫資料

【村郷土館、（南殿 有賀家文書類）】

当文庫は、近世年寄株として代々村の重要な地位にあった南殿の有賀家に残された文書等を内容とし、江戸初期から明治にかけての古文書2,700余点、和書1,000余冊、当時の文人墨客や著名人の書画や浮世絵等を多く蔵し、島崎藤村の『夜明け前』の関係資料もあり、貴重な資料である。



殿村八幡宮朱印状 【南殿、殿村八幡宮】

朱印状というのは将軍の朱印を押した文書で、これにより所有権の認められた土地は幕府の保護を受けた。殿村八幡宮は慶安2年（1649）から万延元年（1860）までの間、9通受けている。

普通は慶応4年（1868）に新政府に全て差し出したはずでどこにも写しだけしかないのだが、この9通はすべて本物である。



エドヒガン桜 【北殿、小学校北】

高さ17m、幹の周囲6.5m、樹齢約270年と推定される。旧伊那街道筋にあり、根元の所に7基の庚申塔がある。その中の元文5年（1740）銘のものが建てられた際に記念植樹されたものと伝えられている。淡白紅色の花を傘状に咲かせ、開花期には実に見事である。

恩徳寺 大銀杏 【沢尻】

推定樹齢370年、幹の周囲3.5m、高さ20m、地上3m程で四方に枝分かれし茸状になっており、秋の黄葉は実に見事である。言い伝えによると、恩徳寺の前身薬師堂の時、境内の大銀杏を切り、本尊の薬師如来を刻んだといわれ、その切り株に生えたのが現在のものであるという。



しゃそう 殿村八幡宮社叢 【南殿】

樹齢数百年をこえる檜・杉・松の常緑樹林である。特に境内参道は、幹の周囲3m余の檜・杉・松等の大樹が両側に並びそびえ、森厳の風に満ちている。社殿南の大杉・東の檜は神木とされている。

コウヤマキ 【南殿、個人所有】

高さ約25m、幹の周囲5.3mである。樹齢は700年余といわれている。

コウヤマキは1種1属の木で、北米やヨーロッパのものは絶滅し、日本にのみ残っている常緑針葉樹である。近郷にみられない巨古木で、その景観もすばらしいものである。



しし 鹿踊り 【大泉】

箕輪郷の惣社南宮大明神へ隔年に鹿を奉納する鹿祭は、永禄元年（1558）日照りで苦しんでいた住民の切実な雨乞祭から始まったという。

今も大和泉神社に勢ぞろいしたお鹿が、昔からの方式に従って鹿踊りを奉納し、更に唐松公園でも行い、南宮神社へ出向く。

おんたけやま 民謡 御嶽山 【大泉、御嶽山保存会】

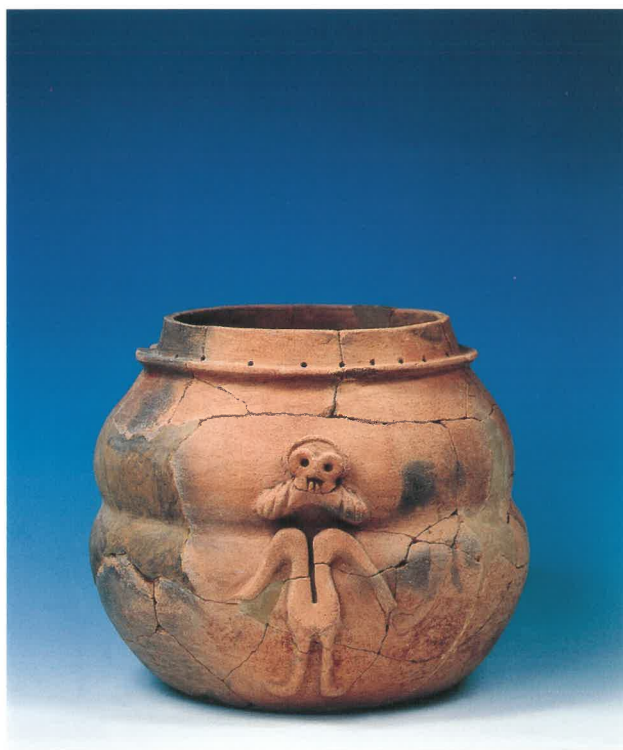
民謡御嶽山は元禄9年（1696）に伊那谷と木曾谷を結ぶ権兵衛峠が整備されてから広く伝播したといわれている。明治41年（1908）に「御嶽山」から「伊那節」に改称されたが、大泉では名を変えることなく今日まで伝承されてきている。



遺跡からの 出土品

神子柴型石器 【神子柴、神子柴遺跡出土】

昭和63年6月6日、国の重要文化財に指定され、学術上の基準となる貴重な遺物である。段丘上ローム層（標高730m）から昭和33～34年に発掘された。旧石器時代末期のものである。
（伊那市創造館保管）



じんたいもんつきゆうこうつばつき 人体文付有孔罎付土器

【村郷土館、久保上ノ平遺跡出土】

この土器は平成7年に久保上ノ平遺跡の発掘調査で出土したもので、今から約4500年前の縄文時代中期のものである。高さは29.9cmで、ヒョウタン状の形をした土器の正面に人のかたどった立体的な人体文様が付けられている。有孔罎付土器は日常的に使われていた土器と比べ出土数が少なく、特殊な土器と考えられているがその用途については明らかになっていない。
（村指定文化財）



写実的な表現のされた土器片

【村郷土館、久保上ノ平遺跡出土】

この土器片は縄文時代中期頃のもので、人の手が立体的かつ詳細に表現されている。手の大きさはちょうど乳幼児位である。

この土器片は土器の装飾の一部か、土偶の一部と思われる。縄文時代にこのような写実的な表現をするのは非常に稀であり、貴重な資料である

縄文土器

【村郷土館、久保上ノ平遺跡出土】

これらの土器は縄文時代中期のものである。屋外で祭祀的な行為をしたとみられる場所で出土したもので、浅鉢型土器を取り囲むように深鉢型の土器が並べられていた。浅鉢型土器は器の底に故意に穴が開けられている。



ゆうこうへんえんつつがた

有孔扁円筒型土製品

【北殿、北垣外(きたがいと)遺跡出土】

古墳時代に用いられた祭器の一種で、カマドの神を祀るためのものとみられている。全長47.5cm、円筒の長径13cm、器厚11mmで、表面に直径7mmの孔が直列する形で4つあけられている。

全国的にみても同種類の出土例は稀である。(所蔵：個人所有)



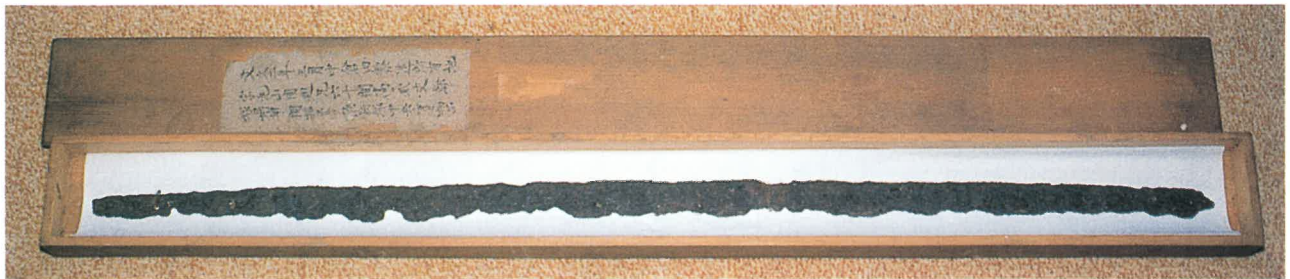
たかつき
須恵器高坏 【塩ノ井、天伯遺跡出土】

坏の口径19.6cm、高さ8.4cmの大きさと、器面には自然釉が部分的に吹き出している。高坏は古墳の副葬品として出土することが多いが、ここでは高坏の坏部が住居址から出土しており注目される。
(脚の部分は復元したもの)



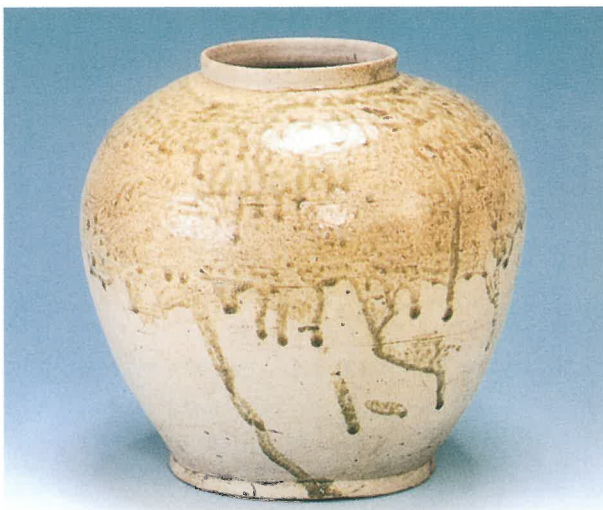
かめ
須恵器大型甕 【塩ノ井、天伯遺跡出土】

口径21.2cm、高さ46.7cm、胴径約48.6cmの大型の甕。ロクロにより成形され、登窯によって高温で焼かれたもので、口縁部内外と胴部に緑色の自然釉がでている優品である。土師器文化の後半、奈良～平安時代のものと思われる。



直刀 【久保、丸山古墳出土】

文久2年(1862)、周囲約108m、高さ6m余の円墳を掘崩し、開拓した際に墳丘の中央から出土したといわれるものである。鉄製品で武器として用いられたと思われる。一緒に滑石製のみごとな子持勾玉も出土している。
(所蔵：村郷土館)



蔵骨器 【村郷土館、宮ノ上遺跡出土】

平安時代の中頃に骨壺として使われたものである。
高さ25cm、最大胴径27.9cmの高台付の灰釉陶器短頸壺で、東濃(岐阜と愛知の県境付近)産とみられる。器面にはロクロによる整形痕を残し、口縁部から胴中央部にかけて灰釉が施されている。破損箇所のない完形品である。
(村指定文化財)



にたき

平安時代の食器と煮炊具・貯蔵具 【村郷土館、塩ノ井山ノ神遺跡出土】

今から1100年程前の平安時代の1軒の住居址から一括して出土したもので、土師器(はじき)・須恵器(すえき)・灰釉(かいゆう)陶器(とうき)の3種類の焼物で構成されている。器の内側に炭素を付着させた内黒(うちぐろ)と呼ばれる土師器の食器のなかには墨書で文字が記されているものがある。

村指定文化財一覧表 (指定順)

名 称	種 類	内 容	数	年 代 (時代)
1 新四国霊場	有形文化財	史 跡	88	江戸時代 嘉永元年 (1848)
2 十一面観音	有形文化財	彫 刻	1	伝：平安時代
3 大般若経	有形文化財	木版印刷	600巻	明治30年 (1897)
4 大宗館文庫	有形文化財	古文書・書画・和書等	4,500点余	江戸時代初期～明治時代中期
5 エドヒガン桜	有形文化財	植 物	1	樹齢約270年 (推定)
6 殿村八幡宮社叢	有形文化財	植 物	多数	樹齢200年～400年 (推定)
7 恩徳寺大銀杏	有形文化財	植 物	1	樹齢約360年 (推定)
8 三十三観音	有形文化財	石 仏	33体	江戸時代
9 富士塚	有形文化財	史 跡	1	伝：江戸時代 元文5年 (1740)
10 大和泉神社本殿及瘡守稲荷社殿	有形文化財	神社建築	2棟	江戸時代 文政11年 (1829)
11 不動明王	有形文化財	彫 刻	3体	江戸時代中期
12 十二神将	有形文化財	彫 刻	11体	江戸時代 文化13年 (1816)
13 大和泉神社鹿踊り	無形文化財	雨乞い祭	1団体	伝：戦国時代 永禄元年 (1558)
14 殿村八幡宮朱印状	有形文化財	古文書	9通	江戸時代 慶安2年 (1649)～万延元年 (1860)
15 蔵骨器	有形文化財	灰釉陶器	1	平安時代 (850年頃)
16 御射山社 (鳥居跡)	有形文化財	史 跡	1	伝：平安時代 大同4年 (809)
17 人体文付有孔鍔付土器	有形文化財	縄文式土器	1	縄文時代中期 (紀元前2500年頃)
18 コウヤマキ	天然記念物	植 物	1	樹齢約700年 (推定)
19 民謡「御嶽山」	無形文化財	唄・お囃子・踊り	1団体	伝：江戸時代 元禄年間 (1688～1704)

文化財所在地

